

2020.3 VOL.133 クリニックレポート

今月の話題：風しん

昨年末から世界規模での新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、手洗いやマスクの着用、不要不急な外出を控えるなど感染防止に努めてみえることと思います。一日も早く、世界中での感染が終息することを願っています。

今月は、一昨年から流行が続いている「風しん」についてお伝えします。

2022年3月まで、男性で昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの方は、風しんの抗体検査および予防接種が無料で受けられます。みたき健診クリニックにおいても健康診断の際、抗体検査が受けられます。ぜひこの機会に抗体検査を受けましょう！（*市町から配布されるクーポン券が必要です。詳しくは、お住まいの市町へお問い合わせください）

風しんとは

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症。1人の患者から免疫のない人5～7人に感染する可能性があり、インフルエンザよりも感染力が強い病気です。

感染経路

風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、人から人へ感染します。

症状

感染すると約2～3週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れますが、感染症状を示さない不顕性感染から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあるため、決して軽視はできません。

発疹の出る前後約1週間は、人に感染させる可能性があります。

治療・予防

対象療法のみ。予防にはワクチン（予防接種）が最も有効です。

流行状況

2012年より流行が続いており、2018年2946人、2019年（12/1現在）2274人、うち成人2149人。男性は女性の3倍以上。特に20～50歳代男性、女性は20～30歳代が多い。

「風しん」感染リスクが続いています！

「風しん」の感染拡大の防止にご協力をお願いします！

風しんの「抗体検査」「予防接種」のご案内
行政の制度をご活用ください

昨年から「風しん」の流行が続いています。強い感染力をもつ「風しん」に感染しないため、周囲の人に感染させないために、風しんの抗体検査、予防接種を受けてください。

風しんとは

- 飛沫感染により、**症状が出る前から**ヒトからヒトへと感染が広がります。
- 高熱・発疹の長期化や関節痛など、**成人は重症化**の可能性がります。
- 強い感染力がある「風しん」に妊婦さんが感染すると、生まれてくる**赤ちゃんの目や耳、心臓に障害**が起る可能性が高まります。

男性

昭和37年4月2日～昭和54年4月1日に生まれの方は、2022年の3月まで、風しんの抗体検査、予防接種を**無料**で受けられます。



健康診断の際に風しんの抗体検査を受けることができます！※

※健診機関によっては実施していない場合があります。

健康診断を受けられる皆さま、ぜひこの機会に「風しん」の検査を受けましょう！

自治体から配布されるクーポン券が必要です

女性

- 妊娠を希望する方
- 妊娠を希望する女性と同居している方
- 妊婦と同居している方

男性 (上記以外)



無料もしくは**費用の一部を補助**する制度をご用意している自治体があります。まずは、お住まいの地域の自治体（住民票のある市区町村）までお問い合わせください。

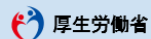
妊娠中の方はご注意ください！

- ・妊娠中の方は「風しん」の予防接種を受けることができません。
- ・同居しているご家族の方に「風しん」の抗体検査を勧めてください。同居しているご家族の方に十分な免疫がない場合、なるべく早く予防接種を受けてもらいましょう。



風しん対策の詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

風しん対策 検索



先天性風しん症候群（CRS）

風しんに対して免疫の不十分な妊娠20週までの女性が風しんウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ（先天性風しん症候群）子どもが生まれてくる可能性があります。妊娠中は予防接種が受けられないため、風しんにかからないよう注意が必要です。

出典：「風しんについて」厚生労働省、「安全と健康」vol21 NO. 2 2020